

記念論文集の発刊に際して

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 明治大学商学研究所 公開日: 2011-04-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 武田, 孟 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/10690

記念論文集の発刊に際して

わが明治大学に商学部が創設されてから今年で既に五十年の星霜を経たので、秋も漸く終ろうとする十一月末の佳き日を卜して、この半世紀に亘る輝かしい商学部の歴史を回顧しながら、来るべき新時代への躍進を希う意味をもつて、商学部教授会、学生、卒業生がともに一丸となつて、大学当局の庇護により盛大な記念祝典を挙行いたしました。その際数々の華々しいプランがたてられて、もろもろの行事がそれぞれの意義をもつて催うされたことはいうまでもありません。今茲に商学論叢の発行にあつて、これを商学部創立五十周年記念論文集として発刊するに至つた所以も亦そのためです。

そもそも商学部五十年の歴史は、大学教育の永遠性から視ればもちろん、また仮りに本学七十有余年の歴史に比べましても左程長いとは言えませんが、しかし、欧米文化を攝取して以来の現代日本に寄与したわが商学部の過去には、極めて意義深いものがあります。明治維新後暫

くは先進文明国を範とする国家体制の整備に急でしたが、その反面、世界各国が競つて経済力増強に専念した趨勢に刺激されて、わが国も亦明治二十七、八年の戦役から、同三十三年の事象を経て国家発展の基礎たる国民経済に著しい発達をみるに至りましたので、実業教育の先驅をなす商業学方面で、大学教育を施す教育機関が要望されてきたことは当然のこと、いわねばなりません。当時この方面に於ける最高峰は、官学で今の一橋大学の前身である東京高等商業学校でありました。この要請に應えて本学に商科大学設置の議が決められるや、かねてその機の到るを待望して日頃脾肉の嘆をかこつていられた前記一橋高商の諸教授達は、就中商業学方面の積学は、挙つて双手をあげて、明大のこの企てに対して鞭撻応援して下つたのであります。それは、再び東亞の天地に風雲急を告げた明治三十六、七年頃のことですが、爾来久しきに亘つて、これら学界の重鎮たる代々の諸教授が主流となつてわが商学部が講壇に立たれて、明大健児のために教育の労をおしまれなかつたその功績は、獨りわが商学部の光榮たるに止まらず、こゝに学んだ青年学徒を通じて国家興隆の礎に貢献されたところが甚だ大であつたのであります。

斯くしてはぐ、み育てられたわが商学部も、大正九年から実施をみた大学令によつて昇格したので、いきおい専任教授制が確立されてきて、母校出身者の海外留学生の派遣となり、漸くその数を増して今日の如く教授会構成の主流部分が出身者で充當されるに至つたことはまことに同慶の至りです。

終戦後、わが国の教育制度に革命的な改革があつたので、商学部も亦現在あるが如き大学制度に脱皮して、更に一段の飛躍をみました。実施以来なお日が浅いので、その教育効果を軽々に論ずるわけにはゆかないが、われわれ教授の任にあるものは日夜懸命の努力を捧げて、この制度の長所とする眞の目的達成に邁進している次第であります。今、静かに五十年の歴史を顧みて、心の底から光輝ある過去の伝統をおう歌して、先人の功を讃えるにやぶさかでないにしても、しかし、それはあくまでも「温故知新」のために役立てるに過ぎないもので、何よりも肝要なことは、どこまでもこの機会に感激を新にして、情熱を傾けて新時代を指導し得るようわが愛する商学部の限りなき発展を希うことであります。

昭和二十八年十二月三十日

商学部創立五十周年記念祭実行委員長

武 田 孟